

昭和37年9月20日生
平成23年4月福岡県議会議員初当選
平成27年4月再選
添田町立添田小学校・添田中学校卒
福岡県立田川高等学校卒
日本大学商学部会計学科卒
麻生セメント株式会社入社・株式会社
麻生情報システム取締役
株式会社麻生情報システム代表取締役
社長

さとし こうざき 聡 夢からはじまる

http://www.kouzakisatoshi.com



県政報告

食と緑を守る緑友会福岡県議団

令和3年12月号

令和4年1月号

福岡県文教常任委員会
国際化・多文化共生社会調査特別委員会
緑友会福岡県議団・副会長
福岡県議会議員

神崎 聡

年末年始を迎えるにあたり、皆様におかれましては、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

本県では、平成29年の九州北部豪雨から5年連続で豪雨災害に見舞われました。相次ぐ災害と被災地の復旧・復興、さらに、国政の動向、県政の諸問題、地域の要望、さらにコロナ禍の中で、感染拡大を抑制しながら、如何に経済再生を図っていくか、医療・福祉、介護問題、小中学校統合や学力問題、地域資源を活かした観光戦略等々、課題山積ですが、着眼大局・著手小局。謙虚に誠実に、与えられた役割と責任を、しっかりと果たしてまいりたいと肝に命じています。

この度、福岡県総合計画審議会委員を拝命し、地方創生の取り組みに加え、感染症対策、人材育成など、県政のすべての分野における施策の方向を示し、行政運営の指針となる総合計画を策定致します。

県議会では、令和3年決算特別委員会委員に選任され、豪雨で被災した「JR日田彦山線運行休止区間での廃線路線敷について」、また彦山周辺の観光・地域振興策を念頭に置いた「ロケツーリズムによる国内外からの誘客について」、問い質しました。
(次ページ以降に掲載)

今後とも、皆様のさらなるご指導、ご鞭撻、また、ご厚情を賜りますようお願い申し上げます。

皆様におかれましては、健やかな年末年始を迎えられますよう、心から祈念致します。



スマートフォンでも県議会録画中継

ブログ報告



動画報告



フェイスブック



フェイスブックページ



ツイッター



9月定例会は、9月10日に招集され、会期中に設置された決算特別委員会を含め、10月14日まで35日間の会期で審議が行われました。9月10日の開会日には補正予算議案2件、条例議案10件、専決処分3件など合計31議案が上程され、この内飲食店に営業時短短協力を支給する予算等緊急性を要する補正予算議案は同日議決しました。

また、9月17日には補正予算議案1件、決算議案20件、また、9月30日には更に追加上程された補正予算、人事の2議案を加え、同日決算議案を除く33議案の採決が行われ、いずれも議決されました。

10月1日からの「決算特別委員会」での議案審査を経て、定例会最終日の10月14日に上程された事業者向け月次支援金給付のための補正予算を加えた補正予算等21議案の採決が行われ、いずれの議案も可決されました。今議会を通じて、合計55議案、補正予算総額は約1,390億円、今年4月からの6か月間で本県では14回の補正予算（コロナ対策・災害対策等）が可決したことになります。

地元田川に関する補正予算には、地域活性化策として日田彦山線沿線の地域振興のため、東峰村・添田町が行うBRT利用促進のための取り組みを支援するほか、英彦山エリアの宿坊跡の整備に対する支援や映画等ロケーション誘致に要する経費が計上されています。



令和3年決算特別委員会
一、ロケツーリズムによる国内外からの誘客
について（商工部議案審議）

《神崎聡委員》

おはようございます。緑友会の神崎聡です。私事で大変恐縮ですが、実は先月の9月20日、私の誕生日だったんですが、59歳となりました。私が初めて県議選にチャレンジしたのが44歳の時でしたから、ちょうど15年も前のこととなりました。

その時のリーフレットを見てみますと、政策の一つとして、“地域の資源を活かした観光産業の促進 第二の故郷づくり”を掲げていました。

「観光は光を見る」と書きます。21世紀に最もふさわしい産業であります。また、自分の後半のもう一つの人生を、自分の一番暮らしやすい所で過ごす。これが本場の観光ではないでしょうか。まだ炭鉱という何となく暗いイメージがありましたので、炭鉱から観光へ。「健康、環境、観光」という新しい3K産業を創出したい。そんな想いで県議選に挑戦したわけがあります。

そこで本日は地域振興、観光振興の一助となる「ロケツーリズム」による国内外からの誘客について「質問してまいります。新型コロナウイルス感染症拡大によって、本県の観光産業も大きな影響を受けています。そこで、新型コロナウイルスの県内宿泊者、旅行消費への影響について、日本人と外国人のそれぞれ、新型コロナウイルス前の状況と比較で説明をお願いします。

《商工部観光政策課長》

国の統計によると、令和2年の県内宿泊者数は、日本人が821万人と、コロナ前の一昨年と比較して約4割減、訪日外国人は、入国制限等により令和2年4月以降、皆減に近い状況となっています。

また、令和2年の県内旅行消費額は、日本人が、前年比約6割減の約588億円、訪日外国人は、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年4月から国は調査を中止しており、公表されていませんが、宿泊者数と同様、皆減に近い状況と考えられます。



《神崎聡委員》

今の説明では、インバウンドは皆減状態ということですが、県では、インバウンド観光客について、いつ頃コロナ前の状況に戻ると見込んでいるのかお尋ねします。

《商工部観光政策課長》

インバウンドの回復時期については、コロナ感染症やワクチン接種の状況、各国の渡航規制や我が国の入国制限の状況、また、航空会社の路線再開など多くの要因があり、見込みを立てるのは大変難しいところであります。

国連世界観光機関（UNWTO）の発表では、国際観光市場の回復について、当機関の専門家委員会のほぼ半数の方が、コロナ前の令和元年（2019年）の水準に戻るの、2024年以降になると予測しています。

この予測を踏まえ、私どもとしましては、インバウンドがコロナ前の状況に戻るの、令和6年頃になるのではないかと考えております。

《神崎聡委員》

国際機関の予測では、インバウンドが本格的に戻るのが令和6年、2024年頃になるとのことですが、その際には、日本国内の地域間競争だけでなく、全世界での観光客の争奪戦が繰り広げられると思います。福岡を選んでいただくためには、いかに福岡の情報を魅力的に、効果的に発信できるかにかかっていると思います。

そこで、その有効な手立てとして、映画やドラマのロケ地を訪ね、その地域の風景と食を堪能し、人々の「おもてなし」に触れ、その地域のファンになることで、ロケ地となった地域の持続的な観光振興の取り組みにつながる「ロケツーリズム」を提唱したいと考えます。

まず、福岡県を舞台とした映画やドラマなどを活用した国内外からの誘客について、県のこれまでの取り組みについてお尋ねします。

《商工部観光振興課長》

県では、これまでも、福岡県を舞台として注目を集めた映画やドラマについて、その舞台となった場所を県の観光情報サイト「クロスロードふくおか」やパンフレットで紹介するとともに、旅行会社に対して旅行商品化を促すため、情報発信を行ってきたところです。

また、インバウンド向けとして、タイ語の観光パンフレットの中で、北九州市の河内藤園や福岡市の舞鶴公園などタイのドラマの撮影スポットを紹介しています。このパンフレットをタイで開催される旅行博で活用するとともに、県のインバウンド向け観光情報サイト「VISIT FUKUOKA」にも掲載し、広く情報発信を行ってきたところです。

《神崎聡委員》

これまでの取り組みは分かりました。一方で、一つのドラマや映画の観光資源としての賞味期限は2年ぐらいいわわれています。つまり、ロケ地情報をはじめとする県内の観光資源の情報をつかんで、それをタイミングよく発信していく必要があるという事です。県として、今後どのように情報発信に取り組むのかお尋ねします。

《商工部観光振興課長》

今後も県内の豊かな自然や景観など、まだ十分に知られていない地域や魅力ある観光資源を市町村とも連携して、掘り起こし、それを動画や県の観光情報サイト、SNS、観光情報パンフレットなどで紹介してまいります。

映画のロケ地をPRすることは、権利関係により一定の制限が生じることもありますが、注目を集めた作品については、これまで同様に、その舞台となった場所やその周辺の観光スポットを、観光サイト、SNSパンフレット等で発信してまいります。

《神崎聡委員》

各地域のフィルムコミッション、ロケ誘致に積極的に取り組んでいる市町村もあります。ロケ地をはじめとする県内の観光資源の情報を国内外のターゲット層にしっかりと届けていただきたいと思います。そのためには、特にコロナ禍においては、デジタルの有効性が一層増しているのではないかと考えます。そこで、デジタルを活用した情報発信について、昨年度の取り組みをお答えください。

《商工部観光振興課長》

国内向けには、これまで取り上げてこなかった隠れた観光スポットを旅行者目線で紹介した観光PR動画「ふくおか避密の旅」において、福岡市の「平成筑豊鉄道の運転体験」や赤村の「源じいの森」などを紹介しSNS等により広く発信しました。また、インバウンド向けには、県内観光地の魅力をよく知る県内在住の留学生などにご協力いただき、英語や中国語などそれぞれの国の言葉で安全・安心な福岡の魅力を伝えるための動画を制作し、往来再開時には、福岡に来ていただけるように、インバウンド向け観光情報サイト「VISIT FUKUOKA」などで発信したところです。



《神崎聡委員》

福岡県が舞台となった映像作品の舞台を、国内外に発信し、ロケ地となった地域の魅力を伝えることで、ロケツーリズムが国内外からの誘客に有効であると私は考えます。また、本県の魅力をデジタル活用によってターゲットに応じた情報を発信していくことは、本県の観光振興に大いに寄与していかないと考えます。こうした取り組みを通じて、国内外からの誘客に繋げていただきたいと思っています。

9月定例会に補正予算として添田町・英彦山のロケ誘致のための市場調査が提案され、議決しました。また来春には、ドキュメンタリー映画として、添田町・英彦山の山伏とアメリカのインディアンとの交流も企画されています。今後、英彦山が舞台となる海外の映像作品が誕生した際には、コロナ収束後の国内外からの誘客への起爆剤になるやもしれません。ところで課長は「鬼滅の刃」を「存じでしうか」？

《商工部観光振興課長》

はい、映画を観ました。世界的に有名な作品です。

《神崎聡委員》

ご多分にも漏れず、私も全巻読みました。が、実は「鬼滅の刃」の鬼滅とは、英彦山系の岳滅鬼岳（がくめきだけ）・岳滅鬼山（がくめきさん）ではないのかと噂が広がっているのを「存じでしうか」。

岳滅鬼山は、鬼滅の逆の漢字を書きます。

山名の由来は、「（悪業の報いとして）餓鬼道に落ちた亡者」餓鬼の心を滅する「から来ている」と言われています。英彦山の鬼杉や一晩にして作ったと言われる鬼の階段、鬼の割れ石など英彦山や求菩提山、修験の山には鬼にまつわる伝説が数多く残っています。

英彦山の御祭神は、天照大神の第一子、天忍穗耳命（あまのおしほみのみこと）です。つまり天照大神の子ども、「日の子ども」の山、「日の子の山」、これが「日子山（英彦山）」の由来です。

鬼滅の刃では、唯一、鬼を倒せることができるのが日輪刃ですが、どう考えても鬼滅の刃は、この「日の子の山」つまり「英彦山」をモデルにしているのではないかと考えてしまいます。

主人公の竈門炭次郎の師匠の鱗滝左近次（うろこだき・さこんじ）の天狗の面は、英彦山天狗を連想させますし、「花の呼吸」の使い手の栗花落カナヲ（つゆり・かなを）の手に乗っている蝶は、日本で唯一の渡り蝶といわれるアサギマダラではないでしょうか。アサギマダラは英彦山にも飛来してくる蝶です。

そして、主人公の竈門炭次郎の竈門ですが、もともと英彦山は、平安時代末期に編まれた「梁塵秘抄」（りょうじんひししょう）という歌謡集に記されています（筑紫の霊験所「竈門の本山『彦の山』」）としても紹介されています。

作者の吾峠呼世晴（ごとうけ・こよはる）氏は福岡県出身であることから、英彦山の修験道や鬼伝説などの歴史に精通していてもおかしくありません。

鬼滅の刃は、世界的なヒット作品となっておりますので、もし英彦山がその聖地だとすれば、これは世界の観光名所になりうるのではないかと思います。

部長、「鬼滅の刃」を詳しく調査・研究して、調査・研究するというのは、漫画を熟読し、一番いいのは、やはり作者に聞くのが一番ですが、それで「ふくおかの避暑の旅」ならぬ「ふくおかの鬼滅の旅」の企画を検討されてはどうでしょうか。

部長、最後に、県内の観光産業は、新型コロナウイルスの影響を受けているところでありますから、国内外からの誘客を図ることによる観光振興に向けた部長の考えを伺います。

《商工部長》

県では、旅行先を検討する国内外の方々に、本県を選んでいただけるよう、県内の豊かな自然や景観など、まだ十分に知られていない地域や魅力ある観光資源の発掘、また、それを情報発信していくという取組を行っております。

また、その中で、福岡県を舞台として注目を集めた映画やドラマについては、舞台となった場所や周辺スポットを観光サイトやSNSなどで発信してきたところです。

特に、コロナ禍においてはデジタルを活用した情報発信、それも、これまで取り上げてこなかった隠れた観光スポットや、ドローンを使った空撮などこれまでと違う角度や視点での動画で、本県の魅力を伝えていく、こういう取組が大事だと考えております。

今後とも、本県の魅力を国内外の方々に、いろいろな工夫をしながら、PRに取り組み、新型コロナウイルス感染症の影響を受け減少した観光需要を喚起していき、観光の振興にしっかりと努めてまいります。

令和3年度9月補正予算の概要

地域活性化

- 〇 日田彦山線沿線の地域振興を支援 3,943万円（現計予算:1,419万6千円）
 - ・【新】東峰村、添田町が実施するBRT利用促進のための取組を支援
 - 駅と目的地をつなぐ二次交通可能性調査（東峰村）
 - 添田駅及び彦山駅の周辺整備（添田町）
 - ・【新】観光拠点創出に向けた英彦山宿坊跡の整備を支援
 - ・【新】英彦山エリアへの映画等のロケーション誘致に向けた可能性調査を実施



＜英彦山神宮の参道＞

「九州自然歩道を活かした"神の山"英彦山参りの再興・参詣ルート開発」のプロジェクトが始動します。

～観光庁「地域の観光資源の磨き上げを通じた域内連携促進に向けた実証事業（第2次）」に採択～

- 〇 県では、平成29年7月九州北部豪雨による被災からの復興を目指す日田彦山線沿線エリアの観光振興に向けた取組を推進しています。
- 〇 このたび、県が（公社）福岡県観光連盟とともに観光庁「地域の観光資源の磨き上げを通じた域内連携促進に向けた実証事業（第2次）」に提案していた「九州自然歩道を活かした"神の山"英彦山参りの再興・参詣ルート開発」が採択され、新たな旅行商品開発に取り組むこととなりました。
- 〇 この事業では、登山用GPSアプリを開発・提供する株式会社ヤママップをはじめとした事業者、ルート上の自治体とも連携し、英彦山神宮を詣でる修験道ルートの開発、英彦山神宮における滞在型の体験プログラムの開発、登山者による植栽プログラムの開発を実施します。
- 〇 これらの取組を通して、英彦山の修験道文化の再興を図り、地域経済の活性化、山の保全と来訪者の増加を両立させるための仕組みづくりを進めてまいります。

- 事業内容
 - (1) 英彦山神宮を詣でる修験道ルートの開発（2ルート開発）
 - ①春峰ルート：太宰府市～古処山～英彦山（3泊4日コース）
 - ②お汐井とリルート：行橋市～みやこ町～赤村～英彦山（2泊3日コース）
 - ポイント
 - ✓ テント（グランピングではないが、上質で快適に過ごせるもの）やテントサウナが提供されるため、参加者は身軽な装備で楽しめる。
 - ✓ 地元食材を使った食事が提供されるため（弁当、ケータリング、宿泊場所で調理などに）、地域の魅力を感じていただける。
 - (2) 英彦山神宮における修験道体験プログラムの開発（英彦山参拝登山や護摩行などを行い、修験道の文化を体験）
 - (3) 英彦山への植栽プログラム開発（購入した苗木（献木）を持って英彦山神宮を参詣し、荒れた山に植林する）



英彦山神宮 鎮鳥居



修験道体験プログラムイメージ



台風被害や鹿の食害を受けている英彦山頂上付近の森の様子

- 事業実施体制
 - ・事業統括：（公社）福岡県観光連盟、地域ブランディング研究所
 - ・修験道ルートの開発：㈱ヤママップ、英彦山神宮
 - ・修験道体験プログラムの開発：英彦山神宮、㈱ヤママップ、クラブツーリズム㈱
 - ・献木植栽プログラム開発：㈱グリーンエルム、㈱ヤママップ
 - ・連携する自治体：福岡県、朝倉市、東峰村、添田町、赤村
- 今後のスケジュール
 - ・令和3年10月～令和4年3月：コース設定、モニターツアー等を実施
 - ・令和4年度：旅行商品販売

【観光庁「地域の観光資源の磨き上げを通じた域内連携促進に向けた実証事業」の概要】

(1) 事業趣旨

観光地域づくり法人（DMO）、農業、地産産業等の観光関連事業者や地方公共団体など、地域に根ざした様々な関係者が連携して観光資源を磨き上げる実証事業を公募・支援し、これらの実証事業の実施を通じ、観光需要の回復や地域経済の活性化に向けた域内連携促進の方向性について検証するもの。

(2) 支援内容

実証事業として国が10/10負担 950万円（単年度事業）

(3) 事業実施期間

事業計画承認日～令和4年3月4日（金）

令和3年決算特別委員会

一、令和3年8月豪雨において被災したJR日田彦山線軌道敷きについて(総括質疑)

《神崎聡委員》

おはようございます。緑友会の神崎聡です。8月11日から降り続いた令和3年8月豪雨において被災したJR日田彦山線の運行休止区間での軌道敷きの災害について質問します。

JR九州は、九州で降り続いた大雨による被災状況では、在来線の久大線や佐世保線での線路変形、停車中の車両の浸水が起きたほか、各地の路線で広範囲に土砂流入や倒木などが発生し、被害は15路線の128件に上ったと発表がありました。

私の地元、添田町では8月15日未明、民家の裏山が崩れ、流れ込んだ土砂で70代女性の下半身が埋まり、自宅に閉じ込められた状態になりました。女性は山の斜面に近い一室で就寝中、流れ込んだ土砂に襲われ、倒壊した柱に足を挟まれて身動きがとれなくなり、自ら携帯電話で110番通報したとのことでした。

警察や消防は家屋の倒壊など二次災害を防ぐため、手作業で慎重に土砂を取り除く一方、派遣された医師が点滴をし、声をかけ続けながら救助作業を続け、通報から約18時間後の午後7時半ごろに助け出されました。女性は足首を骨折していましたが、命に別状がなく、本当に良かったと思います。

私も当日現場に駆けつけ、そして二日後に地元の方の案内で被災現場に行きました。また一週間後の8月22日には服部知事も現場視察され同行させて頂きました。土砂崩れは住宅裏の竹林で発生し、日田彦山線の線路土台がえぐられ、線路が十数メートルにわたって宙に浮いたようになり、土砂は住宅をかすめるように流れ落ち、主要地方道八女香春線の道路も完全に塞いでいました。そこでお尋ね致します。

この土砂災害の概要を簡単に説明してください。また、この被災現場近くでは、どの程度の降水量があったのでしょうか、併せてお答えください。

《総務部防災危機管理局防災企画課長》

この土砂災害は、8月15日の午前1時半頃発生し、民家1棟、空き家2棟、消防団格納庫などを巻き込むとともに、この民家の横にある県道八女香春線を越え、彦山川にも土砂が流出しました。

被災現場近くの降水量でございますが、気象台が設置した添田町の観測所では、8月11日から18日までの8日間で、平年の8月の月間降水量の3倍を超える714ミリの降水量を観測しました。

このうち、8月12日から14日までの72時間雨量は、観測史上最大となる574ミリを観測したとのことでした。

《神崎聡委員》

崩壊した部分は、線路より山側の農地(茶畑)から始まっており、JR軌道敷き路体の盛土が一体となっており、短時間のうちに一気に土砂の崩壊が発生したと添田町役場から聞いています。

それが県道八女香春線を越え、彦山川まで流れていました。そのため、現場の県道八女香春線が全面通行止めとなりましたが、その道路被害の状況と通行止めの期間を教えてください。

《県土整備部道路維持課長》

添田町の県道八女香春線におきましては、山間部から道路上に土砂が流入したため、8月15日から通行止めを行いました。

通行止めを早期解消するため、道路上の土砂撤去など実施しました。地元建設業者が昼夜を問わず作業を行い、令和3年8月17日に通行止めを解除しております。

《神崎聡委員》

昼夜を問わない作業により迅速に復旧いただき、地域の方々も大変喜んでおられました。私からも謝意を申し上げます。

地元では一日も早い復旧を望んでおられます。現在、地元関係者や添田町とJR九州で復旧に向けた協議が行われており、その際、県の飯塚農林事務所も同席しているとお聞きしています。

この協議がうまく進展し、被災地域が一日も早く復旧・復興へと向かうためには、県のサポートも必要であります。この協議に農林事務所は、どのような立ち位置で参加されているのかを説明いただいた上で、今後、どのように係わっていかれるのか、お答えください。

《農林水産部農村森林整備課長》

飯塚農林事務所は、JR九州との協議に際して、添田町から「復旧工法など技術的助言のために立ち会ってほしい」との依頼を受けたため、オブザーバーという立場で助言を行っているものであります。

今後とも、復旧が行われるまで、町からの要請に応じて、必要な技術的助言を行ってまいります。

《神崎聡委員》

添田町においては、技術職員が少ないなどの状況もありますので、引き続き、県からのサポートをお願いしておきます。

鉄道(線路)の下を横断するように布設されている管路があります。この管路のことを伏びと言いますが、本来なら、伏びによって排水される沢からの水が、予定外の方向へ流れたために盛土が崩壊したのではないかと聞いています。今回の災害の要因をしっかりと調査しなければならぬと考えます。

JR日田彦山線が不通になって丸4年となりました。被災区間は、現在、代行バスによる輸送が行われているところですが、現在鉄道施設の点検はどのように行われているのかお答えください。

《企画・地域振興部交通政策課長》

JR九州によりますと、日田彦山線の災害に伴う不通区間につきましては、近接する道路や踏切から、主に徒歩による目視により、盛土のひび割れや陥没等の変状の有無等について、年3回点検を実施していたとのことでございます。

これらに加え、大雨特別警報が発出された場合は、毎回同様の手法で点検を行っていたと聞いております。



《神崎聡委員》

年3回点検を実施し、大雨特別警報が発出された場合も、点検を行っていたとのことですが、実際に災害現場を目の当たりにすると、それだけでは住民の安心・安全は担保できないと思います。

平成29年に被災する前は、列車が毎日運行していましたが、何らかの異変があれば運転手が気づき、危険性を把握し、報告していたのではないのでしょうか。年3回と特別警報時の点検だけで、本当に大丈夫なんのでしょうか。それはちよつとなあくと私は思います。次に進みます。

BRTの開通後、JR九州は、廃線後の線路や盛土等の鉄道施設を今後どうするか、また、その管理をどうしていくのか、県が把握している内容をお答えください。

《企画・地域振興部交通政策課長》

JR九州からは、BRTの1日も早い開通に向けて、BRTで使用する既設ホームの改修や専用道部分の道路工事等に注力しているところであり、添田駅から彦山駅区間の鉄道施設につきましては、今後どのようにしていくのか、順次検討していくと聞いております。

また、その管理につきましては、先月、所有者として、適切に行っていく必要があるとの認識を確認し、今後も適切な維持管理を行うよう要請を行ったところです。

《神崎聡委員》

JRの認識はわかりましたが、被災現場付近は急傾斜地の崩壊による「土砂災害特別警戒区域」に指定されています。災害発生によりJR軌道敷きの路体が流出していますが、被災前は軌道敷きが堤防の役目をしておりました。

線路より山側は特別警戒区域（レッドゾーン）、線路より下方は警戒区域（イエローゾーン）となっていました。

BRTによって使われなくなったJR日田彦山線の軌道敷きは山地に並行して、山裾に盛土によって形成されています。その盛土のすそ野に民家が点在していますから、今後も同様の災害が発生する可能性があります。

住民は、今後、同様な土砂崩れが発生しないか不安に思っています。住民の不安を解消するためには、JR九州において、廃線後の鉄道施設の管理が適切になされるよう県から働きかけを行うべきと考えます。部長の所見をお尋ねします。

《企画・地域振興部長》

委員からは、添田町の皆さんが、今後同じような土砂崩れが起きないか、不安を抱いており、JR九州がしっかりと管理を行うよう、県から求めるべきとの指摘がありました。JR日田彦山線は、平成29年の九州北部豪雨以来運休止し、現在BRTでの早期復旧や沿線地域の振興に取り組んでいるところですが、沿線にお住いの住民の皆様は、今後廃線跡がどうなっていくのか心配されていると思います。住民の皆様が安全・安心に不安なく暮らせることは、非常に重要であると考えております。

課長が先ほど答弁したとおり、廃線後の鉄道施設の適切な維持管理について、要請を行ったところでありますが、今後も県として、改めて、しっかりとJR九州に申入れを行いたいと考えております。

《神崎聡委員》

委員長、ことは県民の生命と財産にかかわることですので、知事保留質疑のお取り計らいをお願いします。

《決算特別委員長》

ただいま神崎委員からの知事保留質疑を認めることとします。

《神崎聡委員》

緑友会の神崎聡です。8月11日から降り続いた令和3年8月豪雨において被災したJR日田彦山線運行休止区間での軌道敷きの災害について知事保留質疑をお願いしました。知事、ご承知の通り、JR日田彦山線復旧問題は、県政を揺るがす大きな問題として政治事案化しましたが、関係者の皆さんのご尽力でBRTへと決着し、今後は地域振興策をどう図っていくのかという議論へ移行しています。そのさ中の今回の災害であります。

部長からは、「廃線後の鉄道施設の適切な維持管理について、要請を行ったところでありますが、今後も県として、改めて、しっかりとJR九州に申入れを行いたいと考えております。」との答弁でしたが、この災害でお分かりの通り、県民の人命に係わっていたことと、そして、私は、県の誰かが、JR九州のどなたに、申し入れをするのかということが、どれほど重要で、かつ物事が大きく左右されるのかということ、を、JR日田彦山線復旧問題で身をもって痛感しました。そこで知事、単刀直入にお尋ね致します。知事は災害現場にいち早く駆けつけられましたが、このJR日田彦山線運行休止区間での盛り土軌道敷きの災害における知事の認識をお聞かせ下さい。



《服部知事》

私は、8月22日に秋田議長と十中副議長と共に、8月11日からの大雨で被災した添田町を含む1市3町を視察しました。添田町では、地元選出の大島委員、神崎委員とともに寺西町長から、土砂災害の現場について説明を受けました。

私自身、実際の災害の現場を目の当たりにし、人家や消防団格納庫などを損壊させた土砂の威力の恐ろしさを改めて痛感した次第であります。

この災害では、1名の女性が倒壊した建物の柱に左足首が挟まれ、下半身が土砂に覆われ身動きができない状態でありましたが、消防、警察をはじめ関係機関による懸命な救助活動により、約18時間後に救出されました。

被災された方が一日も早くお元氣になれることを願っています。長時間にわたり、救出活動に従事いただいた皆様に、この場を借りて改めて深く感謝します。

また、この土砂災害は雨のピークが過ぎ、小康状態となつて数時間以上経ってから発生しました。雨が止んだ後も、気を緩めることなく、しっかりと警戒して対応していく必要があるということを改めて認識したところであります。

《神崎聡委員》

知事のご認識はわかりました。私の認識は、二度と同じ災害が起こらないように、JR九州には、しっかりと原因究明し、徹底した再発防止策を講じることです。知事、選挙で選ばれた私たちの責任と役割は、住民の生命と財産を守り、安心で安全な住みよい街をつくることなんだと私は改めて認識しています。

運行休止区間では、年3回と大雨警報時の点検をしているとのことでしたが、それだけでは今後、同様の災害が起こるのではないかと懸念は払しょくできません。

伏びの管理はもとより、JR九州として、廃線跡の盛り土軌道敷きをどうすれば、住民の安心・安全が担保できるのかを、知事自らしっかりとJR九州のトップにお伝え頂きたいと思えます。そして、添田町と沿線住民の皆さんに、JR九州自らが説明して頂くことが何よりも大切であり、それが地元住民の安心・安全の担保につながるものと私は考えます。知事のご所見をお聞かせ下さい。

《服部知事》

今回の土砂災害でございますけれども、先ほどもうしましたように家の裏の山の斜面、そしてJR日田彦山線の線路敷き、これが崩壊をいたしておりまして、現在、JR九州と被災された住民の皆様との間で、災害の原因、また今後のですね、対応方法について話し合いが行われておるというふうに承知いたしております。ただ、原因についてはですね、現段階では、その因果関係といえますか、原因についてはまだ明確になっていないというふうに向っております。

添田町には、今、神崎委員おっしゃったようにですね、やはり今回の被災箇所と同様に、この山の斜面と並行して敷設された線路敷きがございます。こういったことから、添田町の住民の皆様がですね、やはり不安に思っているというということもあると思えます。

このため、この線路敷きの所有者であり、そして管理責任があるJR九州から、やはりこの線路敷きの点検、維持管理といったもののこの状況についてですね、しっかりと、地元の皆様に説明をしていただくということがはやはり安心していただけるための必要なことであるというふうに思っております。このことから、指導監督権限これは国の運輸局にございますので、運輸局の方の意見も聞いてみたいと思えますし、また地元の添田町ともよく協議をさせていただきまして、今後のJR九州に対する申し入れについて検討を進めてまいりたいというふうに思います。

日田彦山線沿線地域振興の取組

プロジェクトチーム「日田彦山線復旧問題対策協議会」では、復旧方法の議論と並行し、復旧後の日田彦山線の利用者確保と経営継続を見据え、沿線地域の広域的な地域振興、観光振興のあり方についても検討してまいりました。

令和2年5月18日には、藏内勇夫会長出席のもと、日田彦山線沿線自治体とのWeb会議を開催し、東峰村の湍谷博昭村長、添田町の寺西明男町長、日田市の原田啓介市長との間で活発な意見交換が行われました。

また、同月29日には、藏内勇夫会長と松本國寛座長及び栗原渉福岡県議会議長(当時)が(一社)九州観光推進機構の石原進会長(当時)を訪問し、JR日田彦山線復旧に伴う観光振興の取組に関する要請と意見交換を行いました。

さらに、同年6月23日には、当会と栗原渉議長が東峰村の湍谷博昭村長及び添田町の寺西明男町長との意見交換を福岡県議会棟で開催し、東峰村及び添田町が求める振興策を踏まえた「日田彦山線沿線地域振興基本構想」を、両自治体との合意のもとに策定しました。(下図参照)

意見交換後、藏内勇夫会長は、マスコミの取材を受け、「地域振興というのは息の長い戦いになる。我々は今後も全力で支援していきたい」と構想実現に向けた決意を述べました。

一方、福岡県議会も、令和2年6月定例会閉会日(6月24日)に「福岡県日田彦山線沿線地域振興基金条例」を可決し、これにより福岡県に「福岡県日田彦山線沿線地域振興基金(10億円)」が設置されました。

その後、福岡県は、上記基本構想を具体化し、基金の使途の枠組みとするため、日田彦山線沿線地域振興の施策の方向性や内容について定めた「福岡県日田彦山線沿線地域振興計画」を策定(令和3年2月17日)しました。

九州の自立を考える会では、この振興計画を実現していく上でのヒントとなる先進的なアイデアを学ぶため、県とともに「日田彦山線沿線地域振興に係る勉強会(Web)」を開催(令和3年5月24日)するなど、沿線地域の振興発展に向けた取組を積極的に行っています。



(東峰村 添田町との意見交換 令和2年6月23日)

令和3年度の日田彦山線沿線地域振興に係る事業

福岡県では、左記の基本構想や振興計画を実現するため、基金等を活用して、早速、次の事業を進めています。

- 映画等のロケーション誘致に向けた可能性調査
- 観光拠点創出に向けた英彦山宿坊跡の整備支援
- 小石原焼など窯元の後継者発掘のための就業体験ツアー支援
- OBRT利用促進のための取組支援
 - ・駅と目的地をつなぐ二次交通可能性調査(東峰村)
 - ・添田駅及び彦山駅の周辺整備(添田町) など

※令和3年度予算 5,362万6千円(当初予算及び9月補正予算)

日田彦山線沿線地域振興基本構想図



日田彦山線復旧問題を動かした九州の自立を考える会

平成29年7月5日から6日にかけての九州北部豪雨により、福岡県の朝倉市、東峰村、添田町及び大分県日田市に甚大な被害が発生し、JR日田彦山線は、東峰村大行司駅舎の土砂による倒壊や橋梁の損傷をはじめ63箇所もの線路被害のために添田駅と夜明駅(日田市)間が不通となりました。昭和の初期から沿線住民の皆さんに親しまれてきた大切な交通手段が失われてしまったのです。

翌年(平成30年)4月、日田彦山線の鉄道による復旧のため、広域交通行政を担う福岡県、沿線の東峰村や添田町など地元自治体、そしてJR九州による「日田彦山線復旧会議」が設置されました。同会議はその後4回開催されましたが、JR九州から、鉄道による復旧には関係自治体からの財政支援が必要との認識とともに、鉄道復旧の代替案として、BRT(※)方式(下図参照)や路線バスによる復旧案が提示されたことから、議論は膠着状態に陥り、被災から約2年半にわたり復旧の目途さえ立たない、沿線住民の皆さんにとって、大変不安な状況が続いていました。

日田彦山線復旧の取組

こうした中、九州の自立を考える会では、九州の成長発展にとって地域の公共交通の維持は不可欠であるとの観点から、令和2年3月12日、松本國寛理事を座長とするプロジェクトチーム「日田彦山線復旧問題対策協議会」を設置しました。また、この取組に呼応し、福岡県議会も、同年3月27日、日田彦山線の早期復旧と沿線地域振興のための基金等による財源確保を求める「日田彦山線復旧問題に関する決議」を議決しました。

プロジェクトチームは、膠着状態打開のため、福岡県議会と連携実施した被災現場の視察調査等で地元住民の意見を広く聴取し、JR九州の意見も聞いて作成した鉄道とBRTの組み合わせによる4つの折衷案を小川知事(当時)に提示した上で、この4案に限らず、幅広い発想で鉄道での復旧を望む地元住民に寄り添った復旧方法を早急にまとめ、県の考えを直接住民に伝えるべきと助言しました。これを受けて、福岡県は、JR九州案よりも更にBRT専用道を延伸し、東峰村全域を専用道とする復旧案(下図参照)を作成して住民説明会を実施し、当初、鉄道復旧断念に対し大きく反発された地元自治体や住民の皆さんも、最終的には、断腸の思いで福岡県案の受け入れを決断されました。

その後、藏内勇夫会長によるJR九州幹部との大詰めの調整を経て、JR九州側も福岡県案を受け入れる意向を固め、令和2年7月16日に開催された「日田彦山線復旧会議」において、福岡県案による復旧が、JR九州と沿線自治体のトップ間で合意されました。

プロジェクトチーム設置からわずか4ヶ月後のことでした。

現在、この合意に基づき、令和5年度中の完成に向け、日田彦山線の復旧工事が着々と進められています。

(※)BRT…「バス・ラピッド・トランジット」の略。専用道の整備等により、定時性・速達性を確保したバス高速輸送システム。

【復旧工事の概要】

着 工: 令和2年8月

総事業費: 約26億円(被災した橋梁2ヶ所の復旧は県事業で実施)

専用道: 14.1km(彦山駅～宝珠山駅)

進捗状況: 令和3年7月にBRT区間の線路と枕木撤去が完了し、現在、BRT専用道のアスファルト舗装や停留所の整備等が進められている。

日田彦山線復旧問題対策協議会

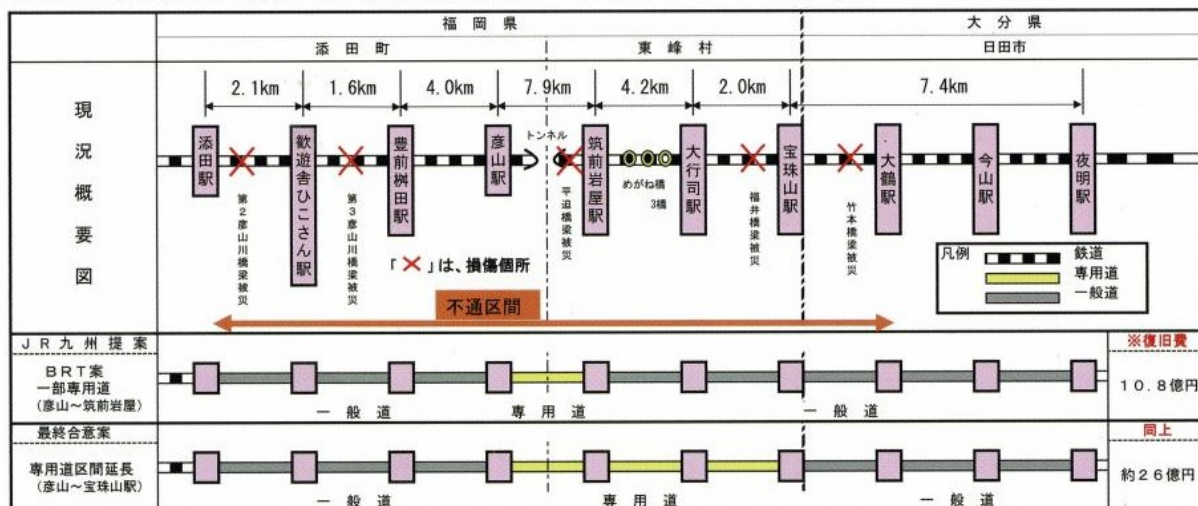
座長: 松本國寛理事 事務局長: 中尾正幸会員
委員: 岩元一儀監事、井上忠敏理事、森下博司理事、
江藤秀之会員、畑中茂広会員、松下正治会員、
神崎 聡会員
設置: 令和2年3月12日

被災鉄道を復旧した先行地域の視察

藏内会長は、プロジェクトチームの設置に先立ち、東日本大震災後に、鉄道で復旧した三陸鉄道とBRT方式で復旧した大船渡線を視察



(三陸鉄道にて)



令和3年度 県文教常任委員会管外視察～和歌山県・滋賀県

令和3年11月4日～6日の日程で文教常任委員会管外視察がありました。議会・委員会では視察においてはコロナ感染拡大に伴う緊急事態宣言もあり延長されていましたが、解除後、コロナも抑えられたこともあり、管外視察も行けるようになりました。それでも視察先については、コロナ感染も考慮に入れて、できるだけ密を避けるがらの視察でした。今回の視察は、私自身が大変興味関心のある分野で、日本の歴史や文化や伝統、重要文化財の維持・保存を如何に取り組んでいるのか、今後の文化財保護や地域振興を考える上でも、大変参考になる視察となりました。

①高野山金剛峰寺
高野山は海拔約1,000メートルの山上に広がる盆地で、平成16年（2004年）に「紀伊山地の霊場と参詣道」として世界文化遺産に登録されています。朝夕は紫雲棚く霊峰というにふさわしい清浄な姿をみせてくれるそうです。高野山の開祖は弘法大師空海で、日本仏教の一大聖地です。弘法大師は804年に遣唐使として、長安で真言密教を授け、鎮護国家、済世利民の教えをこかげ、ここに日本ではじめて真言宗が誕生しました。弘法大師が高野山を真言密教にふさわしい地であると判断したのは古くから一つの物語が伝えられているとの事でした。唐から帰国の途の時に、持っていた三針（さんこ）を空中に投げられ、その三針は空中を飛行して現在の伽藍の建つ壇場の松に掛かっていたと言います。（僧侶の話はもっと詳しく説明されていましたが・・・）
総本山金剛峰寺で説明を受けたあとに本山内に案内されましたが、とても奥が深く凡人の自分にはよくわかりませんでした。ただ建物や文化財の修復や復元といった維持・保存には、やはり国費や県費に頼ざるをえないということであり、宮大工をはじめ職人が少なくなっているようでした。どの分野にも言えることであるが事業承継をどうしていくのか人材育成にはお金も時間も行政支援も必要だということは間違いありません。高野山は初めての訪問でありましたが、それにしても、高さ1,000メートルのところに街が形成されているのには驚かされました。

②高野山霊宝館
金剛峰寺と高野山内117の寺院に伝わる寺宝は1,200年を経た今なお膨大な量であり、まさに日本宗教美術の殿堂といえます。高野山霊宝館は、国宝、重要文化財などの指定文化財約28,000点を含む約100,000点にのぼる絵画・彫刻・工芸品・書跡・考古資料など収蔵しており、これら貴重な文化遺産を大切に守り伝えとともに順次公開していました。本館は、日本現存最古の木造博物館建築で、平成10年（1998年）に登録有形文化財になっています。



略歴
昭和53年 浜田町立浜田中学校卒業
昭和56年 福岡県立田川高等学校卒業
昭和60年 日本大学商学部会計学科卒業
昭和60年 麻生セメント株式会社入社
平成2年 株式会社麻生情報システム転籍（分社化）
平成12年 株式会社麻生情報システム 取締役
平成13年 株式会社麻生情報システム 代表取締役
平成23年 福岡県議会（田川郡区） 初当選
平成27年 福岡県議会（田川郡区） 2期目当選
平成31年 福岡県議会（田川郡区） 3期目当選
福岡県農林水産委員会 副委員長
福岡県総合企画地域振興委員会 委員長

福岡県議会での主な所属
緑友会福岡県議員団 副会長
県文教常任委員会 委員
県国際化・多文化共生社会調査特別委員会 委員
福岡県総合計画審議会 委員
福岡県地域交流連携促進協議会 委員
福岡県タイ友好議員連盟 副会長
福岡県森林・林業・林産物活性化促進協議会 副会長
福岡県日韓友好議員連盟
福岡県日米友好議員連盟
福岡県日中友好議員連盟
福岡県国際交流推進議員連盟
福岡県ベトナム友好議員連盟
福岡県台湾友好議員連盟
福岡県防衛議員連盟
福岡県果樹振興議員連盟
過疎地域活性化対策福岡県議員連盟
産地地域活性化対策福岡県議員連盟
オイスカ国際活動促進福岡県議員連盟
福岡県観光産業振興議員連盟
福岡県文化議員連盟
福岡県スポーツ議員連盟
九州・沖縄未来創造会議
九州の自立を考える会
日本金閣福岡支部 幹事
田川直方バイパス延伸推進期成会 顧問
田川広域観光協会 理事
下関北九州道路整備促進福岡県議員連盟
JR日田彦山線復旧PT協議会 委員

こうざき事務所

〒824-0802 田川郡添田町大字添田1417

TEL:070-4435-9511 FAX:0947-82-5533

こうざきとし

検索

③比叡山延暦寺（東塔-根本中堂）
日本仏教の母山と仰がれる比叡山を開き、鎌倉仏教の祖師たちにも多大な影響を与えた天台宗の開祖・伝教大師最澄。今年は最澄の1,200年の大遠忌を迎えています。伝教大師の強い志と精神である「一隅を照らす」に触れながら、「戒壇院と法華総持院東塔」の特別拝観を案内して頂きました。また、国宝根本中堂の大改修現場を滋賀県庁職員の案内説明を聞くことができ、大変貴重な現場を視察できました。
根本中堂は、伝教大師最澄が延暦7年（788年）に建立したことを起源としています。以来、数度の拡張、焼失、再建を経て、現在の建物は寛永19年（1642年）、徳川家光公の命により再建されています。現在、本堂及び回廊の屋根葺替、全体の塗装や彩色の修理、飾り金具の修理、十二神将の修理を中心に平成28年から10年間をかけて修理を執行中であります。本尊の薬師如来の御宝前には伝教大師の願いが込められた「不滅の法灯」が輝いていました。
また、比叡山焼き討ちから今年が450年の節目の年にあたり、織田信長、明智光秀の子孫（末裔）が比叡山延暦寺で法要をしたというニュースを思い出し、その時の様子やどういった背景があったのか質問しました。やはり伝教大師最澄が亡くなって1,200年の節目と焼き討ちから450年が重なることから、「相手を許すことで、うらみを無くす」という最澄の教えに基づき、焼き討ちの犠牲者とともに悼もうと、織田家と明智家の子孫を初めて招いたそうです。最澄の言葉、「怨（うら）みをもって怨みに報（むく）ゆれば、怨み止（や）まず。徳をもって怨みに報ゆれば、怨みはすなわち尽（つ）く」



④滋賀県総合教育センター
令和2年（2020年）に、「自律的に学び続ける教職員を支援する教育センターの在り方」をテーマに、「全国教育研究所連盟研究協議会（滋賀大会）」を全国から多数関係者が集まり開催しています。喫緊の教育課題や現場ニーズに対応するため、①新型コロナウイルスの感染を避けた研修・研究の在り方、②GIGAスクール構想による一人一台端末環境での授業への対応、③新しい学習指導要領への対応について教育センターの使命を伺いながら、「読み解く力」の育成に重点をおいた児童生徒が学びを実感できる授業づくりについて説明を受けました。ここで言う「読み解く力」っていうのは、①主に文章や図、グラフから読み解き理解する力、②主に他者とのやりとりから読み解き理解する力 この2つの側面と、①発見・蓄積、②分析・整理、③再構築、の3つのプロセスで整理していました。「読み解く力」は全ての教科等の学習や、普段の生活での友達との会話や遊び、読書など様々な場面で発揮できる力で、「読み解く力」が身につくと、学習したことをどんどん広げて活用できるようになるとしています。
質疑応答で、「レベルの高さに驚いているが、まさに政治や行政に、企業など社会で身につけなければならない力だと思う。これに加えるのであれば、何が起るかわからない社会の中で、時代を読み解く力、また実際に「読み解く力」を持っているあるべき姿はどんな人なのか、そして子供たちが「読み解く力」を学んで社会人として巣立った時にどのような人物に成長しているのか、きちんと検証することが必要と感じる」と最後に意見を申し上げた。



■令和3年8月	9月24日 J Aグループ福岡との要請懇談会	11月13日 地区公民館ボランティア活動
8月15日 豪雨災害現場	9月27日～29日 常任委員会	11月13日 鎮西同窓会総会
8月16日 令和3年8月豪雨災害被災状況確認	■令和3年10月	11月14日 令和3年度「ふくおか教育月間記念行事
8月17日 緑友会緊急災害対策会議	10月1日～12日 決算特別委員会	11月17日～19日 国際化・多文化共生社会調査特
8月22日 豪雨災害被災地視察添田町	10月5日 十大雅福岡県議会副議長就任祝賀会	別委員会管外視察
（服部知事同行）	10月9日 岳陽同窓会総会	11月19日 松山政司参議院議員政経文化フォーラム
8月23日 豪雨災害被災地視察（久留米・八女）	10月12日 秋田県二福岡県議会議員就任祝賀会	11月21日 地区公民館清掃活動
8月25日 IY-Globalプロジェクト会議（添田町）	10月13日 J A福岡県県協要望・意見交換会	11月21日 ゆめっせフェスタ2021
8月26日 国際化多文化共生社会調査特別委員会	10月15日 地区公民館ボランティア会	11月24日 代表者会議・議員総会・政策審議会
8月26日 令和3年8月豪雨災害知事要望	10月17日 公明党時局講演会	11月24日 在福岡タイ王国総領事館交流会
8月26日 議員総会・政策審議会	10月18日 添田町役場	11月29日 福岡県総合計画審議会
8月31日 政策審議会	10月19日 衆議院議員総選挙公示日	11月27日 平成筑豊鉄道・日本郵便地域活性化協
■令和3年9月	主要地方道八女香春線国道昇格促進期	定締結式
9月1日 IY-Globalプロジェクト会議	成会要望活動（県、九州地方整備局）	11月29日 福岡県総合計画審議会
9月3日 議員総会・政策審議会	10月27日 県庁要望活動	11月30日 県スポーツ議連
9月3日 J Aグループ豪雨災害要望	10月27日 上田川・下田川「オゾン」クラブ合同例会	■令和3年12月
9月6日 第3回福岡県総合計画審議会	10月28日 田川県土整備事務所	12月1日～20日 12月定例会
9月8日 政策審議会	10月29日 県議会打ち合わせ	12月4日 地区公民館グランドゴルフ大会
9月10日～10月14日 9月定例会	10月31日 衆議院議員総選挙開票日	12月5日 大家敬志参議院議員政経フォーラム
9月14日 議員総会・政策審議会	■令和3年11月	12月7日8日 代表質問
9月16日17日 代表質問	11月1日 政策審議会	12月9日～13日 一般質問
9月21日～24日 一般質問	11月4日～6日 文教常任委員会管外視察	12月14日～16日 常任委員会
9月21日 福岡県タイ友好議員連盟	11月9日 日崎町議会～福岡県教育長表敬訪問	12月21日～23日 緑友会福岡県議員団管外視察
9月22日 過疎地域活性化協議会臨時総会	11月10日 田川県土整備事務所～永田要望箇所	日程は紙面の関係上、主な行事（12月予定）だけの掲載です。詳細はホームページをご覧ください。
9月24日 決算特別委員会	11月12日 政策審議会	